仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

個人投資家様向け会社説明会資料

2023年9月2日

目次

Ⅰ	会社概要	P 2
Ⅱ	成長戦略	P14
Ⅲ	2024/3期業績予想	P21
Ⅳ	株主還元	P24
	参考データ	P27

Ⅰ．会社概要

経営方針

すべてのステークホルダーからの信頼を拡大

100年企業に向けた強固な基盤構築

株主

株主還元強化
PBRを意識した経営

株主様、潜在株主様

顧客

安全・安心な素材の安定供給と
レシピ力で差別化できる素材供給

取引企業、当社製品を
食するすべての人

地域社会

事業活動を通じ、地域
社会への貢献を実行

地域社会への貢献

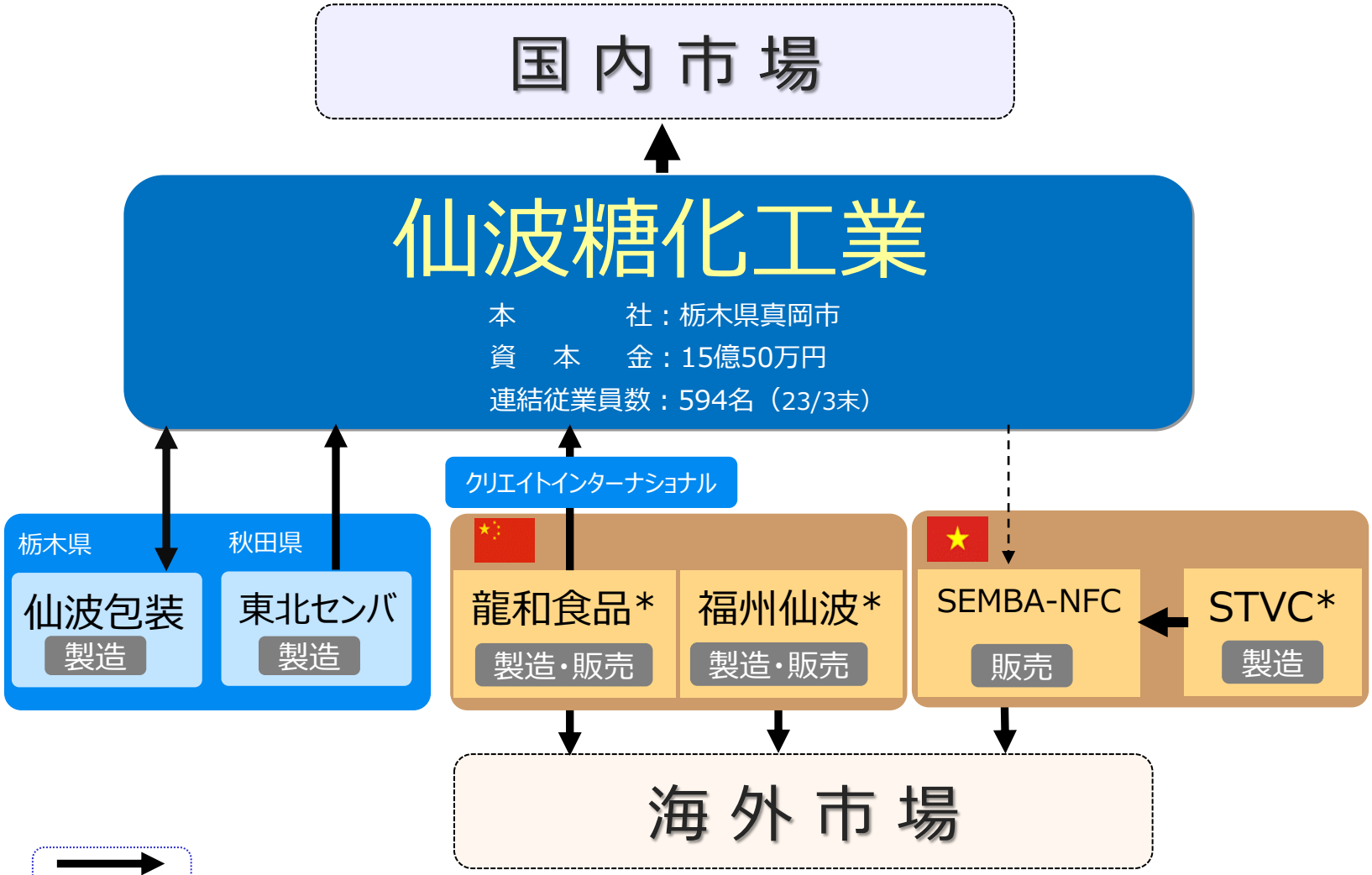
従業員

モチベーションの高まる
職場環境づくりと人財育成

グループ全社員

より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、
収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす

当社グループ

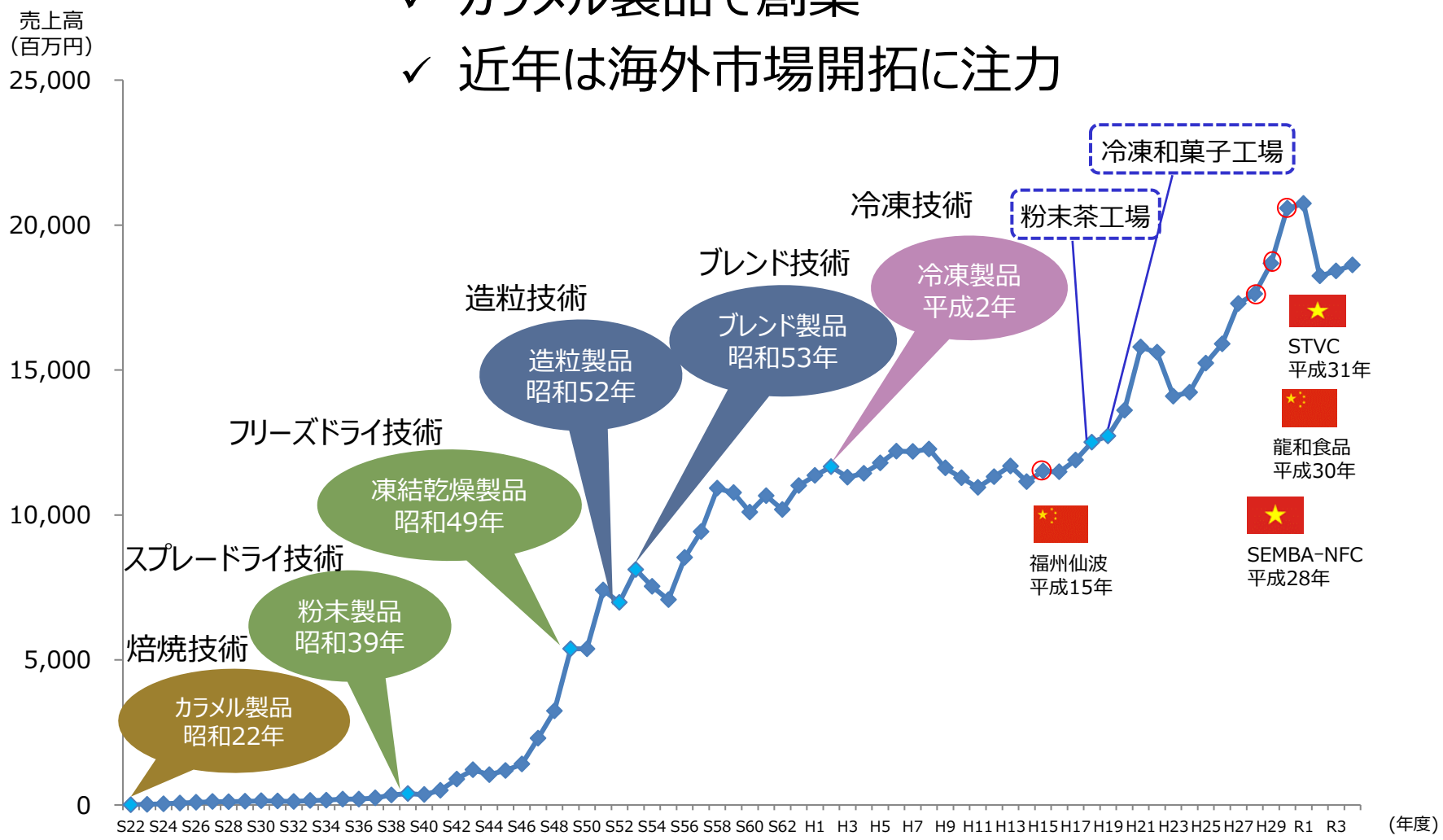


STVC*：SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED
福州仙波*：福州仙波糖化食品
龍和食品*：福建龍和食品実業

業容拡大の歴史

食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカー

- ✓ カラメル製品で創業
- ✓ 近年は海外市場開拓に注力



当社製品例

こんなところに

●カスタードプリン、
炭酸飲料・コーヒー牛乳 にも…

●インスタントラーメン にも…

●粉末茶 にも…

●インスタントコーンスープ にも…

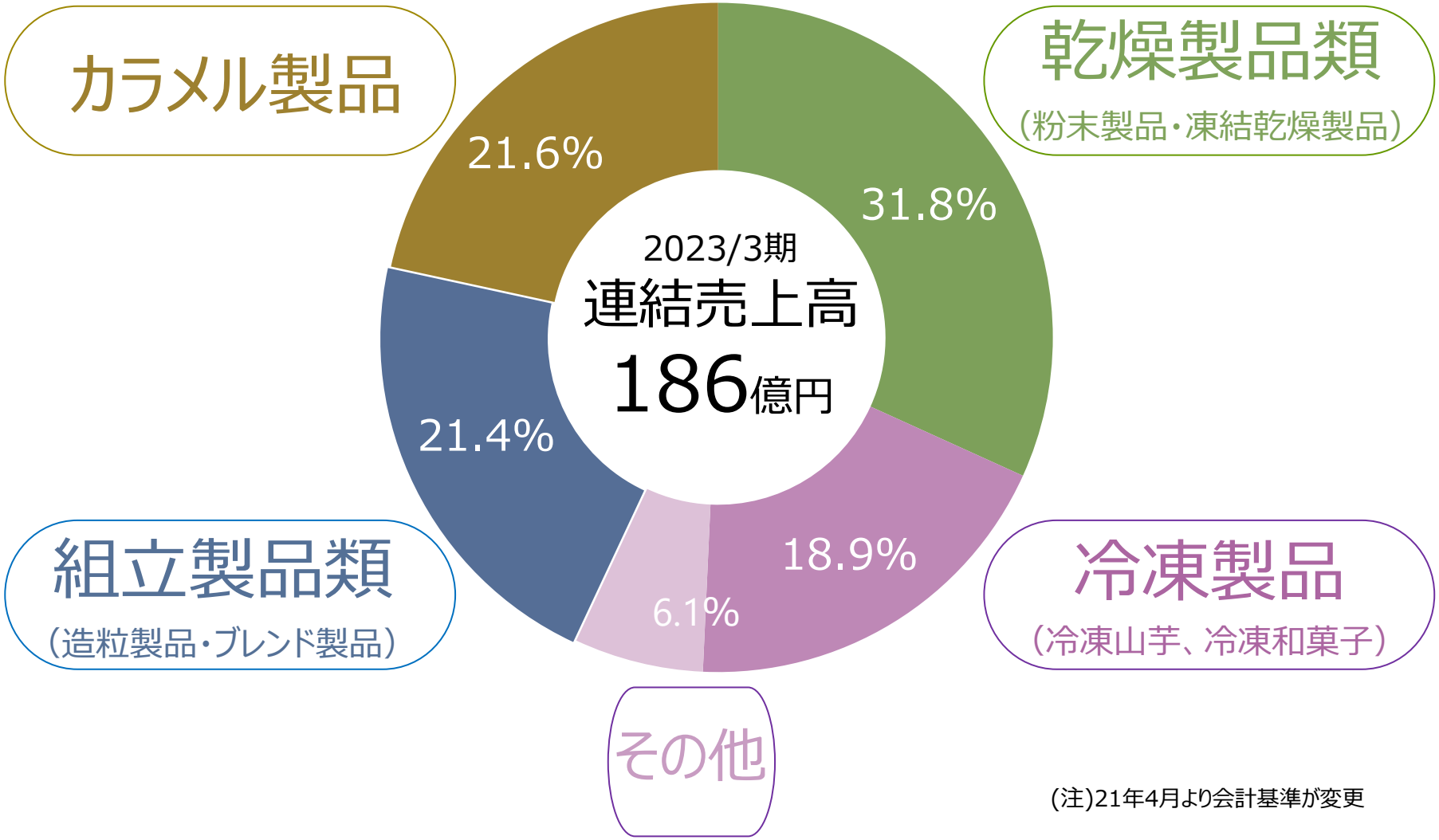
●即席味噌汁 にも…

●お好み焼き にも…

●とろろそば にも…

●冷凍和菓子製品

製品種類別売上構成



(注)21年4月より会計基準が変更

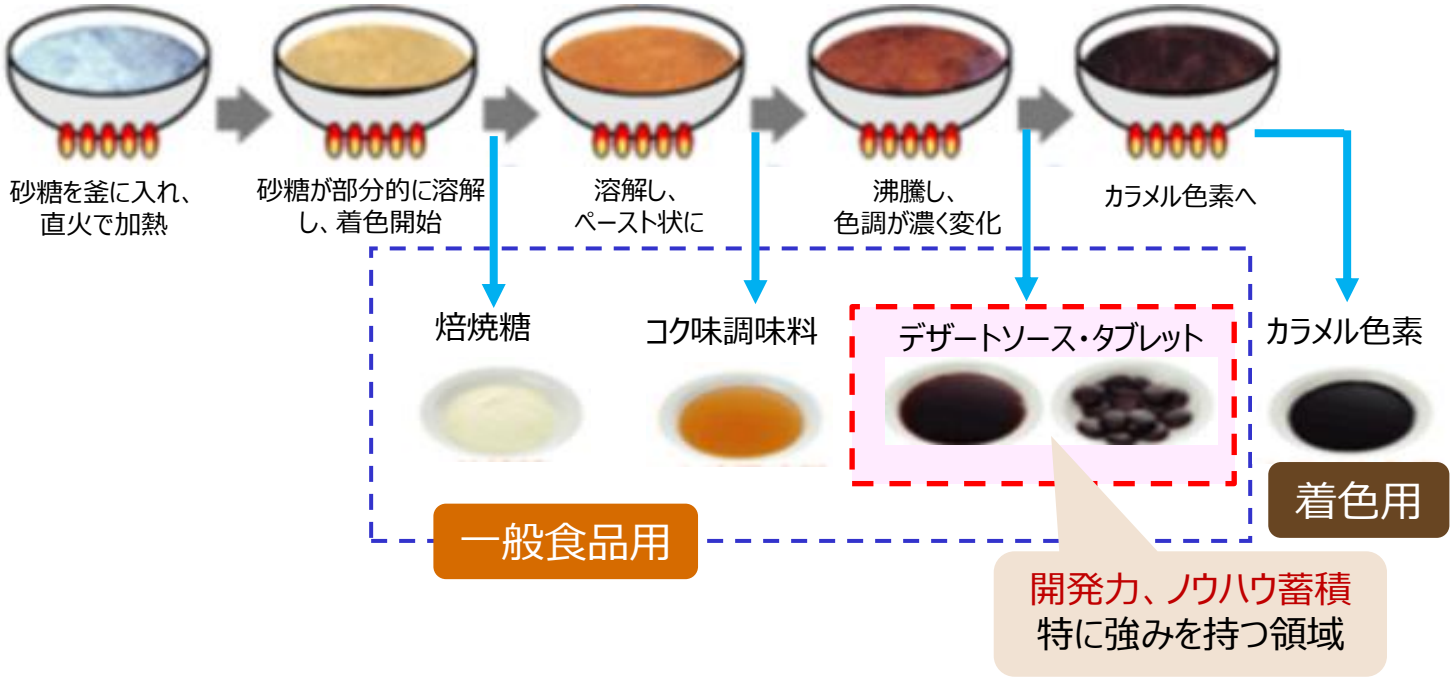
事業概要

カラメル製品事業

- ✓ 創業商材。国内シェアトップ
- ✓ 焙焼技術で着色用と一般食品用を作り分け
- ✓ 高付加価値のデザート向け新製品開発に注力
- ✓ 海外需要の取り込みで成長を目指す

焙焼技術とは

糖を独自のノウハウで加熱し、多用途な製品を作り分ける。
カラメル製品は用途に応じて液状製品と固形製品に大別される。



事業概要

カラメル製品事業

食品用途の拡販に注力中

着色用

- 清涼飲料やアルコール飲料の飲料向け
- ソース、カレー等、幅広い需要

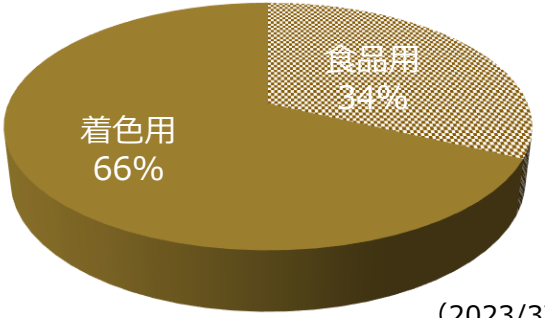
食品用

- プリン等のデザート向けやコク味調味料向けが主力
- 高級洋菓子やアイスクリーム向け好調

一般食品向け製品例

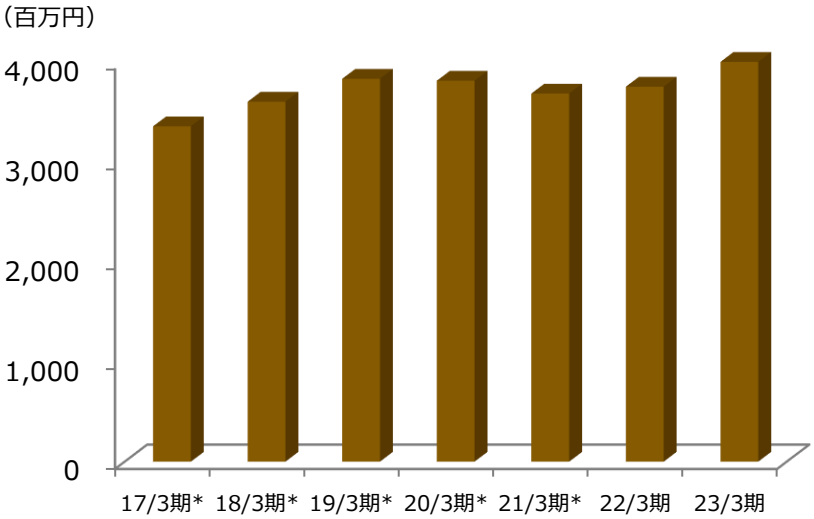
カラメルソース（ボトル品）　カラメルソース（顆粒品）　カラメルソース（タブレット）　キャンディー・チップ

用途別カラメル製品売上構成



（2023/3期）

カラメル製品売上高推移



（注*）21/3期以前は旧会計基準

事業概要

乾燥製品類事業

- 売上高の約80%は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける
- 粉末製品は、粉末茶が主力で粉末調味料（味噌や醤油）なども販売
- 凍結乾燥製品は、即席めん向けの野菜ブロックと粉末山芋が主力

当社の主力製造技術

粉末製品

スプレードライ(SD)技術

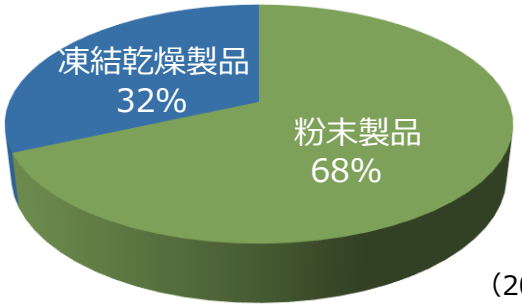
液状化した原料を霧状にし、加熱空気で瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

フリーズドライ(FD)技術

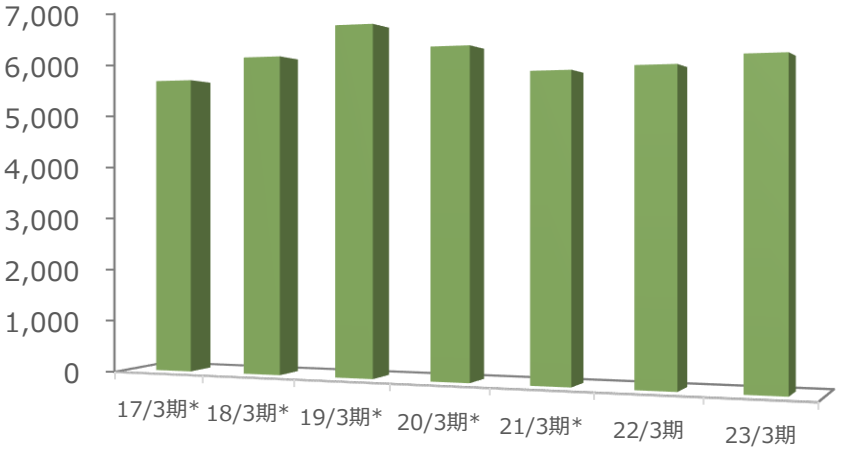
凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなうことなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

乾燥製品類売上構成



（2023/3期）

乾燥製品類売上高推移



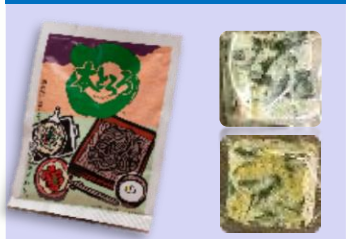
（注*）21/3期以前は旧会計基準

主な乾燥製品の紹介

【国内市場向け】

粉末製品例

凍結乾燥製品例



粉末山芋　野菜ブロック

聖 シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】

稀 シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】

【紅茶】

【玄米茶】

【麦茶】

【海外市場向け】

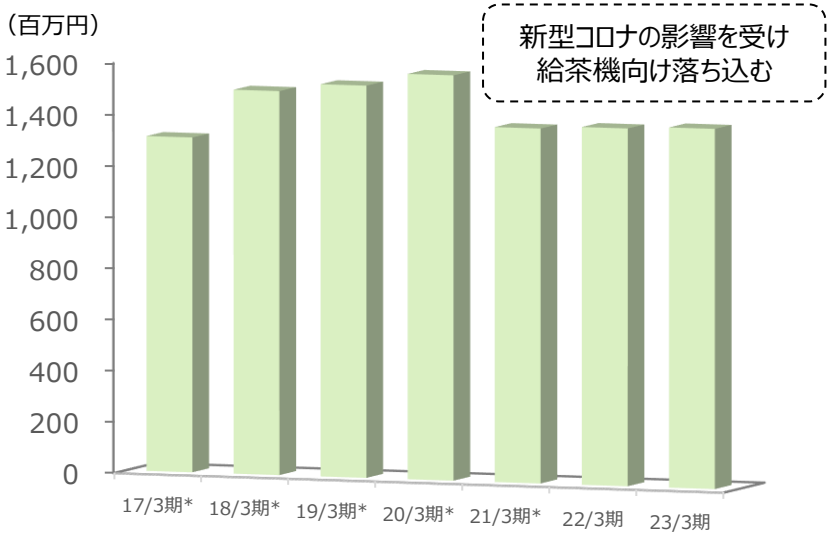
粉末製品例

抹茶ラテ

凍結乾燥製品例

野菜ブロック

【粉末茶売上高推移】



（注*）21/3期以前は旧会計基準

事業概要

冷凍製品事業

- ✓ 冷凍和菓子はメディケア市場向け中心に、約50種類を販売
- ✓ 冷凍山芋は業務用・CVS向け中心。取扱量は業界２位
- ✓ 中国子会社は主にタピオカなどの冷凍デザートを手掛ける

【冷凍和菓子】

どら焼きやドームケーキの拡販続く

【冷凍山芋】

新型コロナの外出規制解除はポジティブ

【中国市場向け製品】

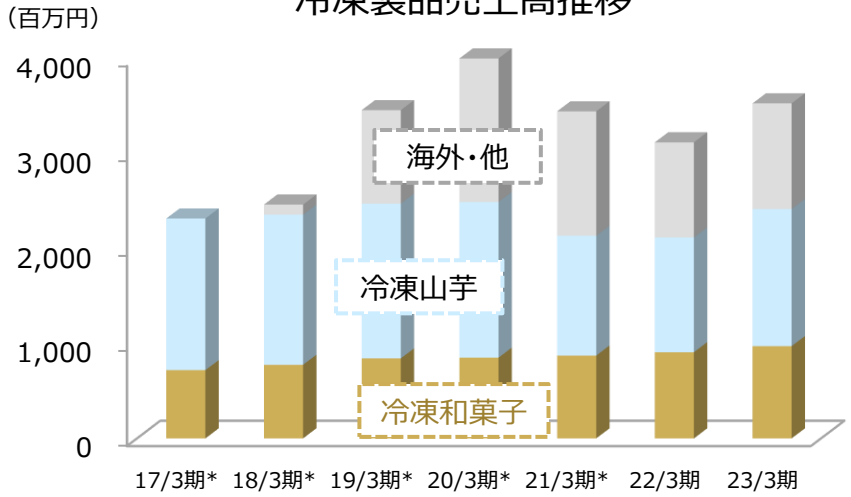
ウィズコロナ政策への転換でファーストフード向け回復

【タピオカ】

【求肥】

【白キクラゲ】

冷凍製品売上高推移



（注*）21/3期以前は旧会計基準

事業概要

組立製品類事業

- ✓ 受託加工が中心。組立製品事業の50%強は健康食品受託加工
- ✓ 溶け易くなどのキーワードで提案営業を強化
- ✓ 23/3期はスポーツサプリが大きく落ち込む

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使い易い最終商品へ仕上げる。

ブレンドとは

各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

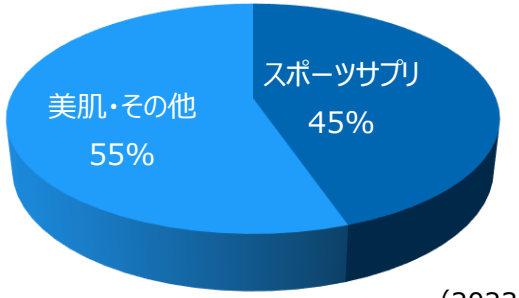
造粒製品

スープ類、健康食品、スポーツ飲料、ココア等

ブレンド製品

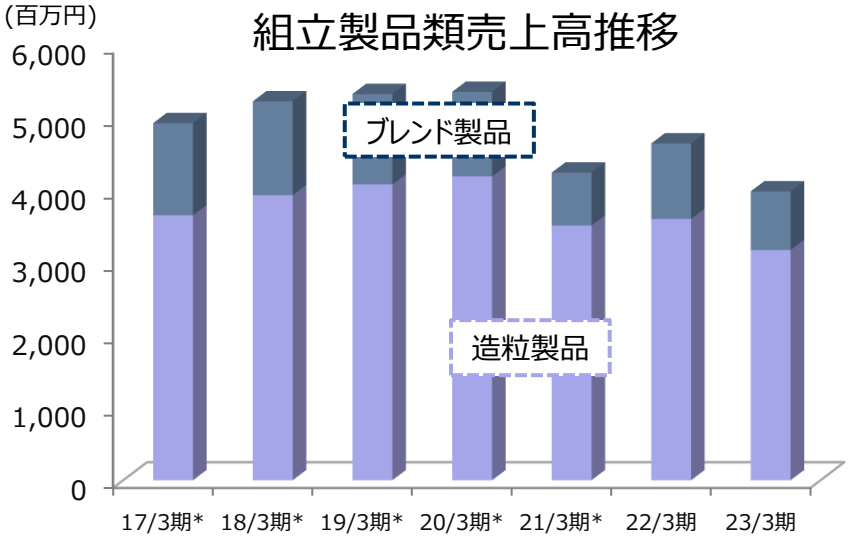
小麦粉ミックス、唐揚粉、みそ汁、粉末エキス等

健康食品の売上構成



（2023/3期）

組立製品類売上高推移



（注*）21/3期以前は旧会計基準

Ⅱ．成長戦略

基本戦略

グループ経営力強化

- 海外子会社管理強化
- 個別経営からの脱却

自社商材拡販

- 開発強化
- 提案営業強化

海外市場開拓

- 中国市場対応
- 東南アジア市場対応

営業キャッシュフローの最大化を目指す

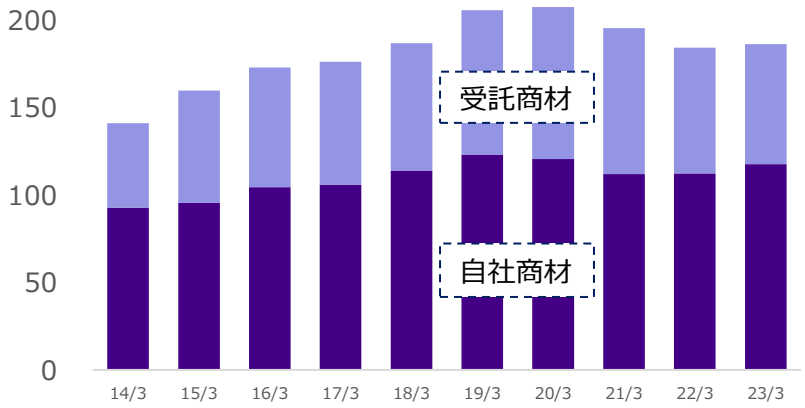
成長投資資金の確保と還元強化

注）営業キャッシュフロー＝営業利益＋減価償却費

当面の対応強化 海外事業基盤の整備

基本戦略の進捗状況　新型コロナに加え、円安・資源価格高騰の影響残る

自社商材売上高推移



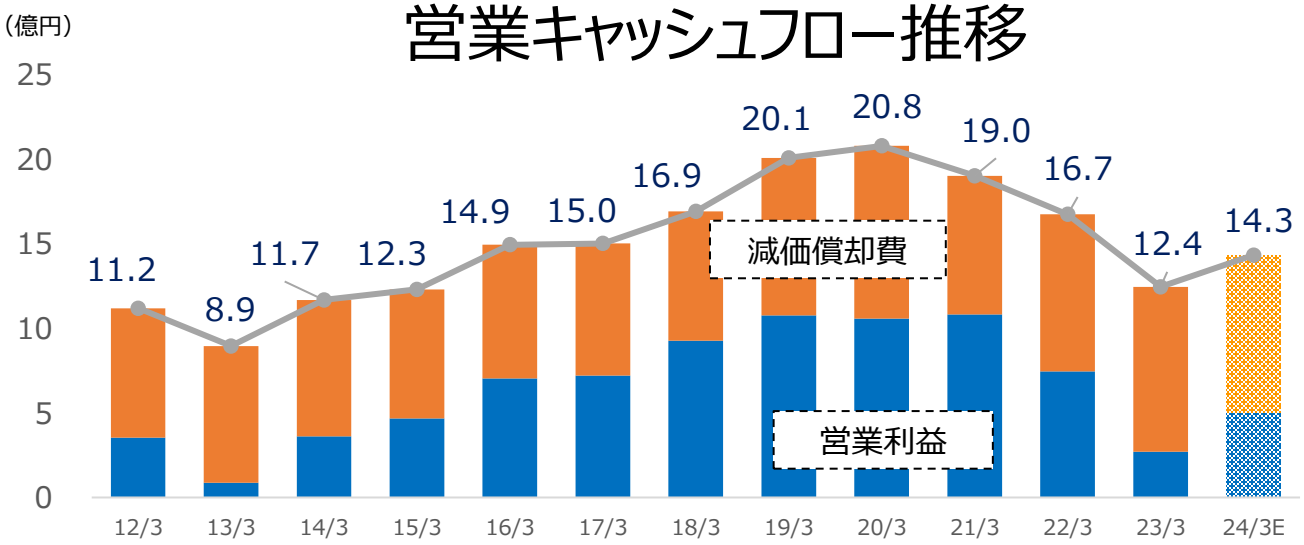
海外市場向け売上高推移

(単位：百万円)

	18/3＊	19/3＊	20/3＊	21/3＊	22/3	23/3
海外売上高*	264	1,497	1,403	1,304	1,338	1,520
海外売上比率*	1.4%	7.3%	6.8%	7.2%	7.3%	**8.2%**
海外子会社*	225	1,465	1,342	1,281	1,315	1,496
輸出*	39	32	61	23	23	24

(注*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

営業キャッシュフロー推移



海外事業

日・中・越3拠点活用で海外市場開拓

中国

龍和食品
福州仙波

上海事務所（仙波糖化）

工場：2019年11月竣工

ベトナム

SEMBA-NFC
STVC*

工場：2021年9月竣工

STVC*:SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

【商材開発】

日本：仙波糖化と共同

【海外事業従業員】

（単位：人）

	従業員数（臨時雇用者除く）		出向者	
	22/3末	23/3末	22/3末	23/3末
福州仙波	12	10	中国事業	
龍和食品	105	106	5	8
SEMBA-NFC	5	4	ベトナム事業	
STVC*	21	33	6	4

【海外事業収益】

（単位：百万円）

	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期
中国事業						
売上高	195	2,496	2,692	2,473	2,255	2,375
営業利益	77	260	239	160	▲46	▲204
ベトナム事業						
売上高	30	41	77	117	122	154
営業利益	▲1	3	0	▲5	▲68	▲123

（注*）中国事業は龍和食品、福州仙波単純合算ベース
ベトナム事業の営業利益は,SEMBA-NFCとSTVC単純合算

中国事業

ウィズコロナ政策に対応した事業構築へ

前期の収益状況

- ✓ ロックダウンで外食向け商材の需要低迷
- ✓ 新型コロナで新商材の採用延期
- ✓ 昨年終盤はウィズコロナ転換後の物流大混乱

＋

人民元高（昨年度は、営業利益で約▲1億円の悪化要因）

【新型コロナ感染症蔓延以降の収益推移】 （単位：百万円）

	21/3（実績）	22/3（実績）	23/3（実績）	24/3（予想）
売上高*	2,473	2,255	2,375	2,854
営業利益*	160	▲46	▲204	▲28

為替：19.49/元　予想20.0円/元

（注*）売上高、営業利益は龍和食品、福州仙波単純合算ベース

今期の重点施策

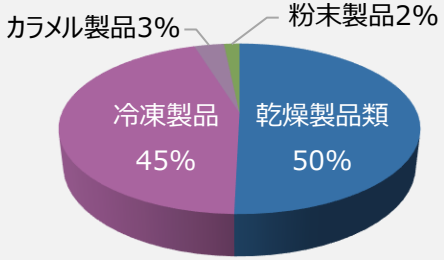
- ✓ 冷凍デザートや乾燥スープなどの品揃え強化
- ✓ 新粉末製品の上市
- ✓ 中国市場向け営業強化
- ✓ 収益認識の早期化（昨年経理部員を専任化）

収益見込み

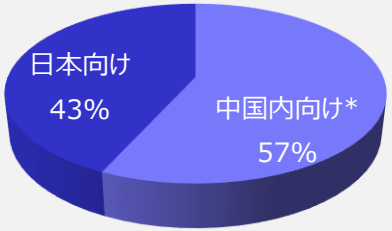
今期収益は回復基調だが、電力単価の上昇や元高の影響残り、収益貢献化は来期からを見込む

23/3期売上高

①品種別売上構成



②向け先別売上構成



（注*）一部日本向け以外の輸出含む

ベトナム事業

日本品質基準で早期に東南アジア市場を取り込む

前期の収益状況

- ✓ カラメル設備が稼働開始
- ✓ 完成の遅れたSD（スプレードライ）設備は未稼働
- ✓ STVC社で棚卸資産評価損計上（51百万円）

【ベトナム事業のビジネスモデル】

【製造子会社】
STVC
（100%出資）
カラメル製品、焙焼製品
ブレンド製品、SD製品

→

【販売子会社】
SEMBA-NFC
（60%出資）
一部仕入れ商材も販売

今期の重点施策施策

担当役員が営業強化に向けて出張で陣頭指揮

- ✓ SD製品（粉末製品）の生産開始と販売 → 1QからSD設備が稼働し、SEMBA-NFCが販売を開始

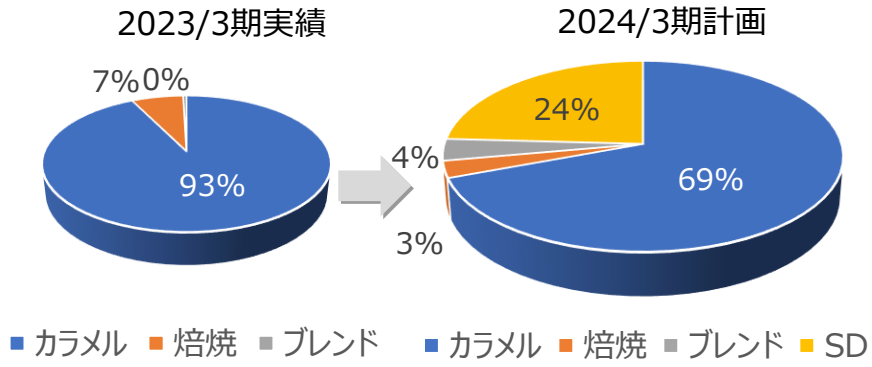
収益見込み

SD設備の稼働で、製造子会社は営業黒字を計画

【STVC社の営業キャッシュフロー予想】 （単位：百万円）

	22/3期（実績）	23/3期（実績）	24/3期（予想）
営業CF	▲9	▲53	77
売上高	39	105	366
営業利益	▲71	▲126	14
減価償却費	62	73	63
為替レート	0.0056円	0.005728円	0.005556円/VND

STVC社の品種別出荷額



今期の重点施策

今期の懸念材料

- ✓ 世界的な農産物価格の高騰
- ✓ 食品会社のステルス値上げに伴う販売量減少懸念
- ✓ 上期の鶏卵不足

今期の重点施策

継続的な値上げ

ステルスの影響を受けない新商材の開発・上市

海外子会社の重点施策の完遂

間接部門も含めた生産性向上

Ⅲ　2024/3期の業績予想

【2024/3期第1四半期決算概況】

✓売上高は海外の冷凍デザートが牽引し、3.5%増収

✓営業利益は、増収効果で増益を確保するも

為替差益減少で経常利益は17.0%減益

（単位：百万円、円）

	2023/3期（1Q）		2024/3期（1Q）		
	金額	前同比伸び率	金額	前同比伸び率	上期予想進捗率
売上高	4,603	▲0.8%	4,765	+3.5%	49.6%
カラメル製品	988	+9.6%	1,038	+5.0%	–
乾燥製品類	1,438	+1.0%	1,416	▲1.5%	–
組立製品類	1,046	▲15.0%	1,007	▲3.8%	–
冷凍製品	845	+4.6%	1,035	+22.6%	–
その他	283	+2.8%	267	▲6.0%	–
営業利益	153	▲47.2%	175	+14.3%	88.0%
経常利益	241	▲28.0%	199	▲17.0%	105.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	194	▲13.3%	147	▲24.2%	98.1%
1株純利益	17.04	-	12.93	-	-

【2024/3期業績予想】

✓通期の営業利益は85.5%増益を見込む
ただ、値上げ浸透のタイムラグで営業利益率は2.5%までの回復に留まる
✓為替差益が無くなるが、通期の経常利益は22%増益を見込む

（単位：百万円、円）

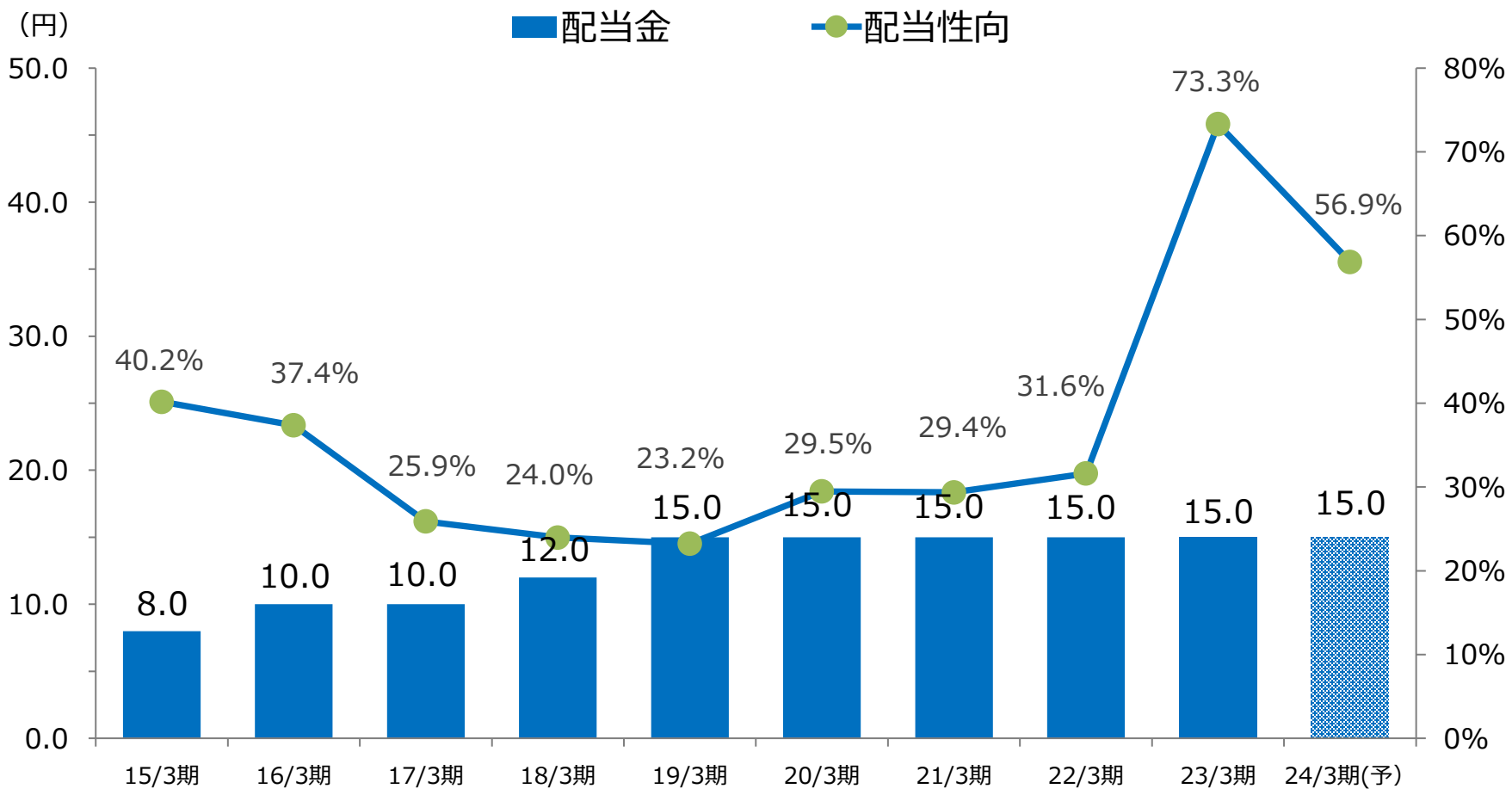
	2023/3期			2024/3期予想			
	上期	下期	通期	上期（予）	下期(予)	通期(予)	伸び率
売上高	9,272	9,347	18,620	9,600	10,200	19,800	+6.3%
営業利益	234	35	269	200	300	500	+85.5%
経常利益	417	▲28	389	190	285	475	+22.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	359	▲126	232	150	150	300	+28.8%
1株純利益	31.58	▲11.16	20.46	13.19	13.19	26.38	-
設備投資額			408			872	
減価償却費			975			933	
研究開発費			249			280	

〈為替レート前提〉 23/3期:19.49円/元、24/3期(予)：20.0円/元

Ⅳ. 株主還元

配当金予想　15円/株を据え置き

【2024/3期予想】



株主優待

対象となる株主様

9月30日現在、5単元（500株）以上保有 の株主様が対象。

優待内容

2021年8月6日に**長期保有の株主様への優待制度を見直し**

12月

※2022年12月の優待品

7月

※2023年7月の優待品

3年未満保有の株主様

自社製品 3,000円相当

12月 【12月上旬】

3年以上保有の株主様

自社製品 6,000円相当

(3,000円相当×2回)

12月 【12月上旬】・【7月上旬】 7月

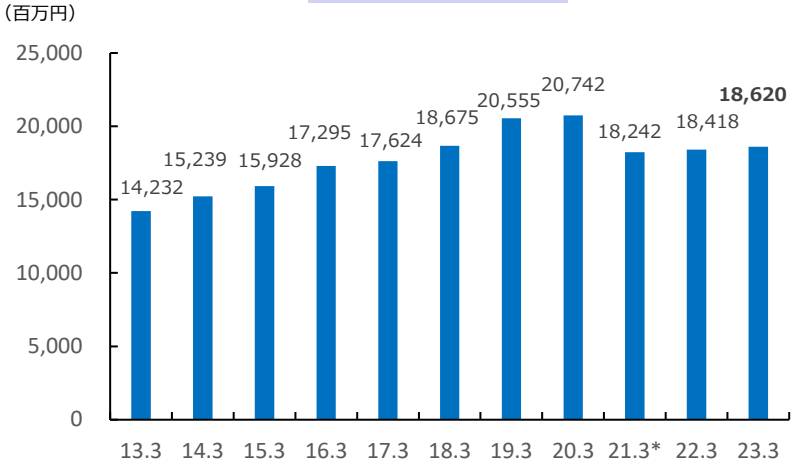
参考データ

沿革

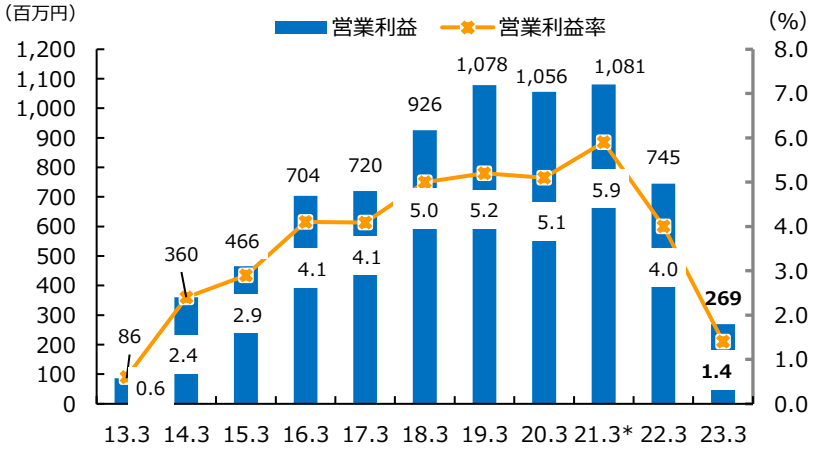
1946年 10月　栃木県真岡市に創業、カラメルの製造販売開始。
1963年　5月　スプレー・ドライヤーを新設し、粉末食品の生産開始。
1967年　7月　茨城県水戸市に工場を新設。
1971年 11月　真岡工業団地に真岡第二工場を新設。
1972年　5月　太陽食品包装株式会社設立。(現：仙波包装株式会社)
1974年　3月　真岡第二工場の第2期増設完了。フリーズ・ドライ製品の生産開始。
1977年　9月　本社工場に造粒設備を新設。
1979年　9月　スプレー・ドライヤー及び造粒設備増強のため真岡第三工場を新設。
1988年　9月　水戸工場を真岡第三工場へ移転。
1990年　7月　株式会社東北センバを設立し、冷凍山芋の生産開始。
1991年　1月　福建龍和食品実業有限公司を共同で設立。
1994年 11月　資本金13億4,050万円に増資。日本証券業協会に株式を店頭登録。
2001年　8月　資本金15億50万円に増資。
2003年 11月　福州仙波食品有限公司（現:福州仙波糖化食品有限公司）を設立。
2006年　4月　真岡第二工場に昆布エキス製造工場を新設。
2006年　9月　真岡第二工場に粉末茶製造工場を新設。
2007年　4月　冷凍和菓子の生産開始。
2007年　8月　真岡第二工場に鰹節エキス調味料設備を新設。
2011年　5月　真岡第三工場スプレー・ドライヤーS&B。
2012年 11月　株式会社東北センバ大館新工場稼働。
2016年 10月　SEMBA-NFC設立。
2017年　4月　真岡第二工場焙焼製品新工場稼働。
2018年　1月　福建龍和食品実業有限公司を子会社化。
2019年　3月　SEMBA TOHKA VIETNAM設立。
2021年　9月　ベトナム新工場完成

主要財務データ①

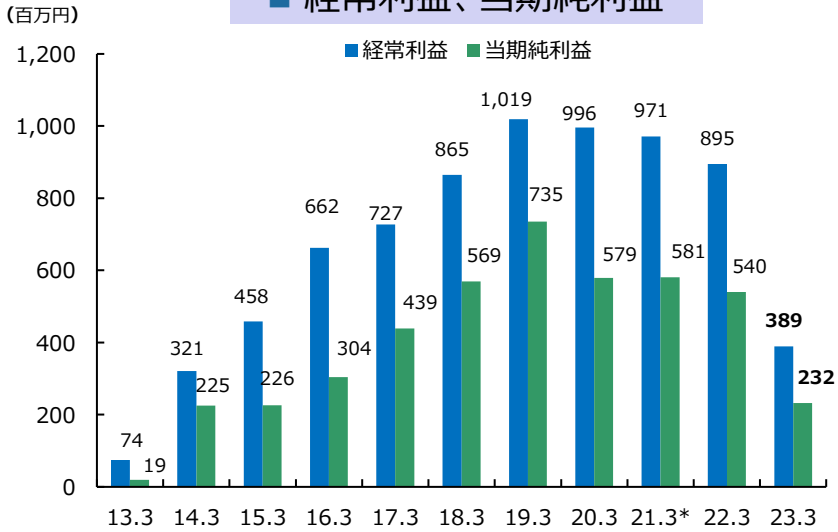
■ 売上高



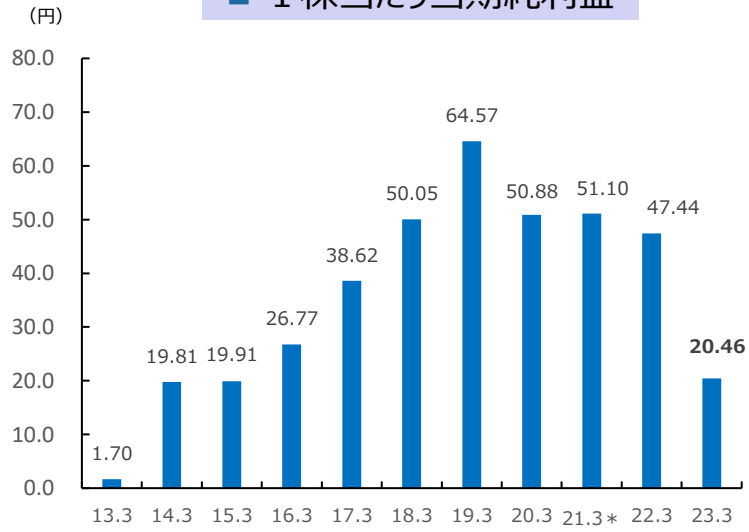
■ 営業利益



■ 経常利益、当期純利益



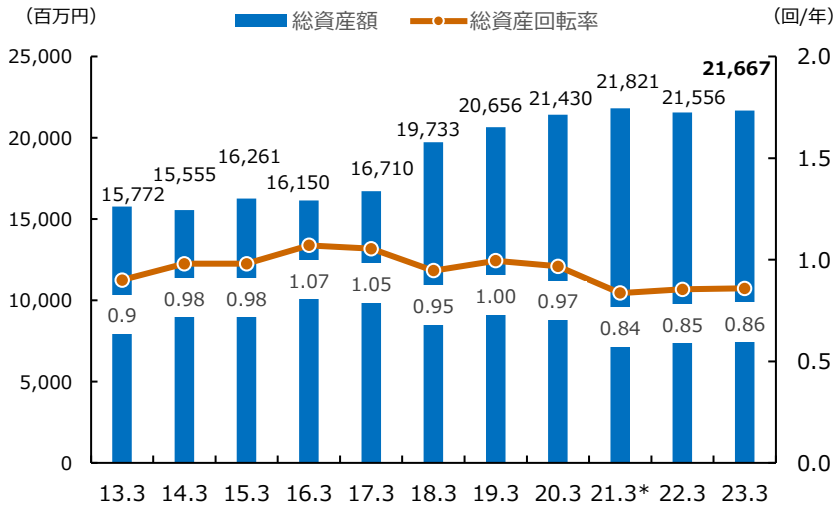
■ 1株当たり当期純利益



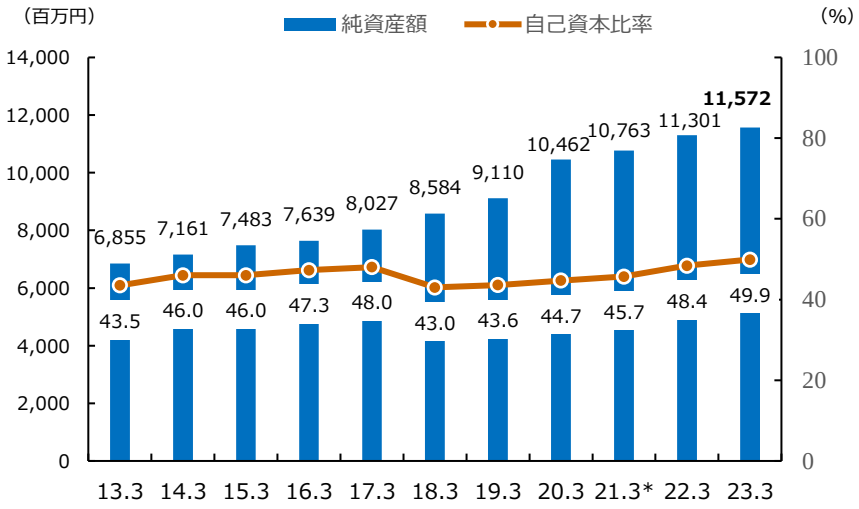
(注*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

主要財務データ②

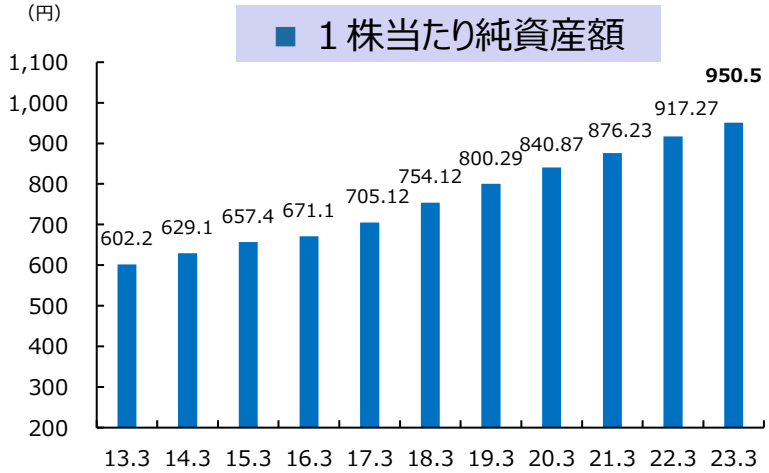
■ 総資産、総資産回転率



■ 純資産額、自己資本比率



■ 1株当たり純資産額



(注*）20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

〈お問い合わせ先〉
仙波糖化工業株式会社
総務部　IR担当

TEL: 0285-82-2171
FAX: 0285-84-3283
E-Mail : ir@sembatohka.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 https://www. sembatohka.co.jp/

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。